



⚠️ ご使用前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

MT-10

MTN1000

BFT-28199-J0

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。





この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1	書類入れ..... 4-19	クラッチ..... 7-8
あなた自身と同乗者のために..... 1-1	フロントフォークの調整..... 4-19	ブレーキレバーの遊び/ ブレーキペダルの遊び、および
歩行者と他の車のために..... 1-5	リヤクッションの調整..... 4-21	ブレーキのきき具合の点検..... 7-8
環境・住民の方との調和のために..... 1-6	荷掛けフック..... 4-24	ブレーキランプスイッチの点検..... 7-9
各部の名称 2-1	ブレーキレバーの握り調整..... 4-24	ブレーキパッドの点検..... 7-9
左側面..... 2-1	DC ジャック..... 4-24	ブレーキ液量の点検..... 7-10
右側面..... 2-2	サイドスタンド..... 4-25	ドライブチェーン..... 7-10
運転装置と計器類..... 2-3	イグニッションサーキット カットオフシステム..... 4-25	ドライブチェーンの給油..... 7-11
車両の特徴 3-1	日常点検 5-1	バックミラー..... 7-12
クルーズコントロールシステム..... 3-1	日常点検の実施..... 5-1	車体各部の給油脂状態の点検..... 7-12
D-mode (ドライブモード)..... 3-3	日常点検箇所/点検内容..... 5-1	アンダーブラケットの 取り付け状態の点検 (ステアリングシステム)..... 7-13
トラクションコントロール システム..... 3-4	運転操作 6-1	バッテリー..... 7-13
クイックシフトシステム..... 3-6	エンジン始動..... 6-1	ヒューズの交換..... 7-14
各部の取り扱いと操作 4-1	ギヤチェンジのしかた..... 6-2	灯火装置および方向指示灯の 点検..... 7-17
キーの取り扱い..... 4-1	ブレーキ..... 6-3	運行において異常が認められた 箇所の点検..... 7-18
イモビライザーシステム..... 4-2	ならし運転..... 6-3	
メインスイッチ..... 4-2	駐車..... 6-4	
ハンドルスイッチ..... 4-3	点検整備 7-1	お車の手入れ 8-1
警告灯と表示灯..... 4-5	点検整備の実施..... 7-1	洗車..... 8-1
マルチファンクションメーター..... 4-8	サービスツール..... 7-2	アルミフレーム、 キャストホイールの取り扱い..... 8-2
盗難警報器 (別売アクセサリ)..... 4-15	エンジンオイル..... 7-2	保管のしかた..... 8-3
シフトペダル..... 4-15	エンジンのかかり具合、 異音の点検..... 7-4	アフターケア用品について..... 8-3
ABS..... 4-16	低速、加速の状態の点検..... 7-4	
フューエルタンクキャップ..... 4-17	冷却水..... 7-5	
燃料..... 4-18	エアクリナーエレメントの交換..... 7-6	
シート..... 4-18	タイヤ..... 7-6	製品仕様 9-1
ヘルメットホルダー..... 4-19		

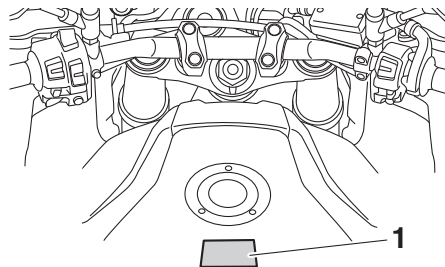
ユーザー情報	10-1
二輪車を廃棄する場合は？	10-1
サービスマニュアル（別売）の 紹介	10-2
車両情報	10-2
 索引	 11-1

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。安全運転とは、交通ルールを守るだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために 安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
 - ズボンのすそや袖口の広い服
 - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
 - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

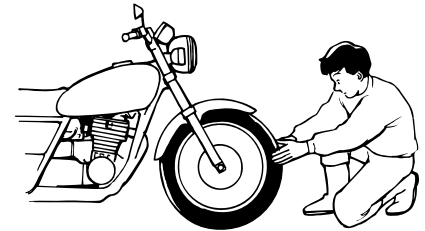
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受

安全運転のために

1

けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

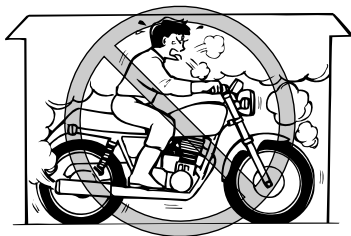
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



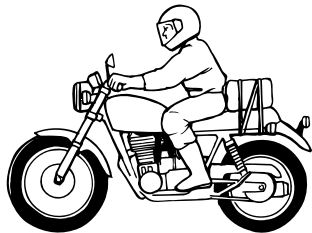
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する

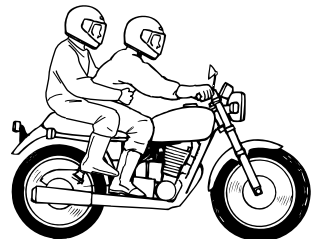


- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。

- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせませう。
- 同乗者には、両手で体をしっかりと固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせませう。

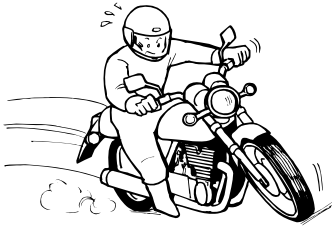


乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。また、高速道路（2人乗りが許可されている

高速道路) においては、20才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

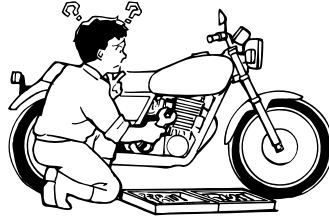
誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせく

ださい。



JCA15221

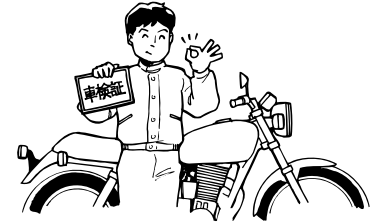
注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

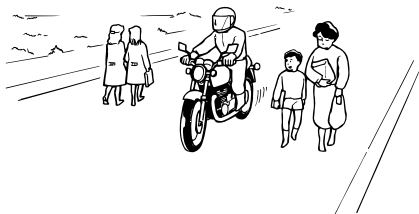


安全運転のために

1 歩行者と他の車のために 他の人への思いやり

JAU27504

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

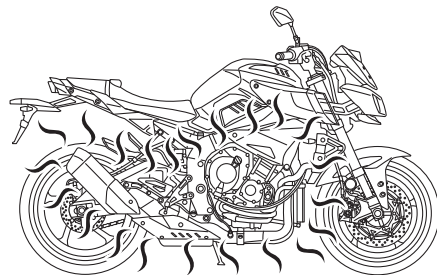
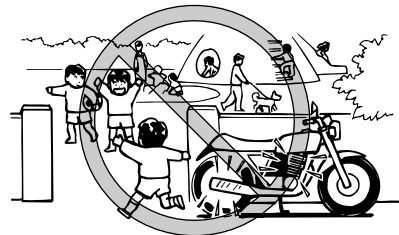
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。

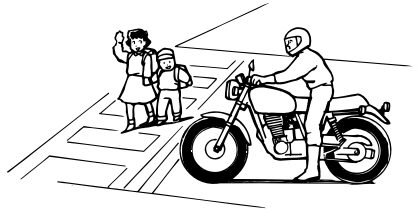


昼間はヘッドライトを下向きに

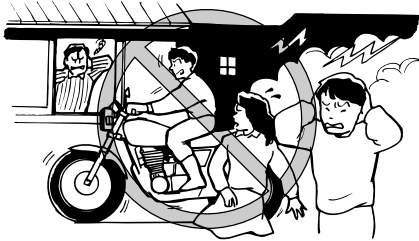
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

環境・住民の方との調和のために 住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



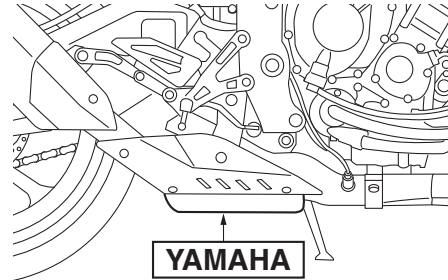
特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



JAU27582

違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買

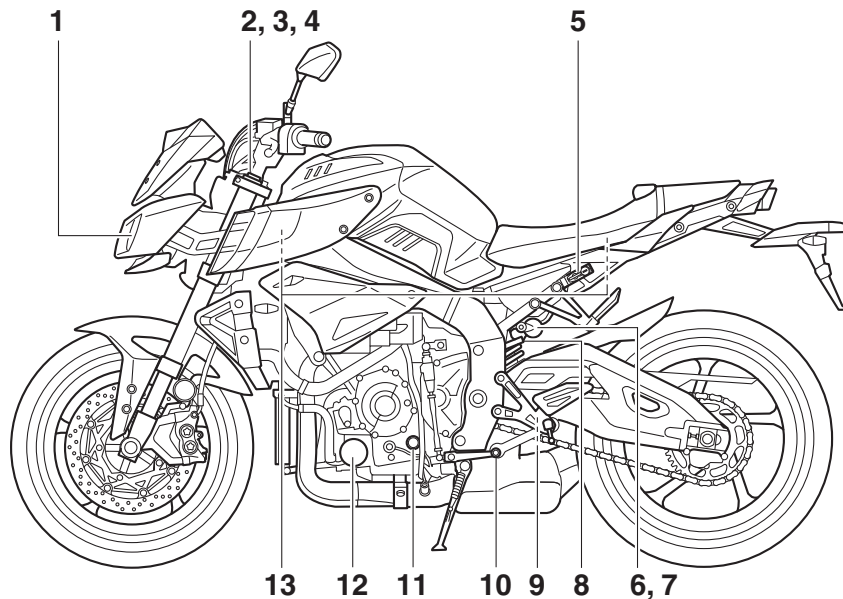
いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

左側面

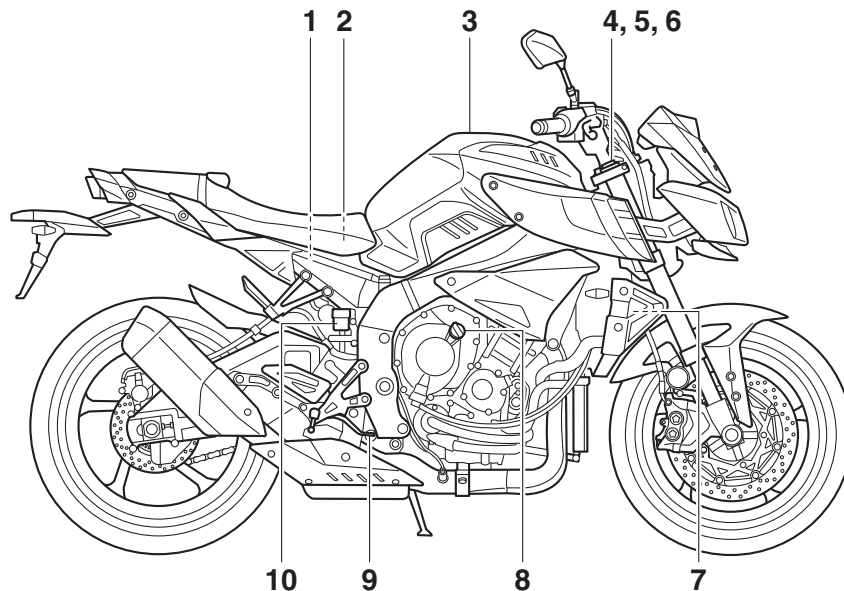
2



1. ヘッドライト
2. スプリングプリロードアジャスター (P4-19)
3. 伸側減衰力アジャスター (P4-19)
4. 圧側減衰力アジャスター (P4-19)
5. ヘルメットホルダー (P4-19)
6. 高速減衰時用圧側減衰力アジャスター (P4-21)
7. 低速減衰時用圧側減衰力アジャスター (P4-21)
8. スプリングプリロードアジャスター (P4-21)
9. 伸側減衰力アジャスター (P4-19)

10. シフトペダル (P4-15/6-2)
11. エンジンオイル点検窓 (P7-2)
12. オイルフィルターエレメント
13. ヒューズ (P7-14)

右側面

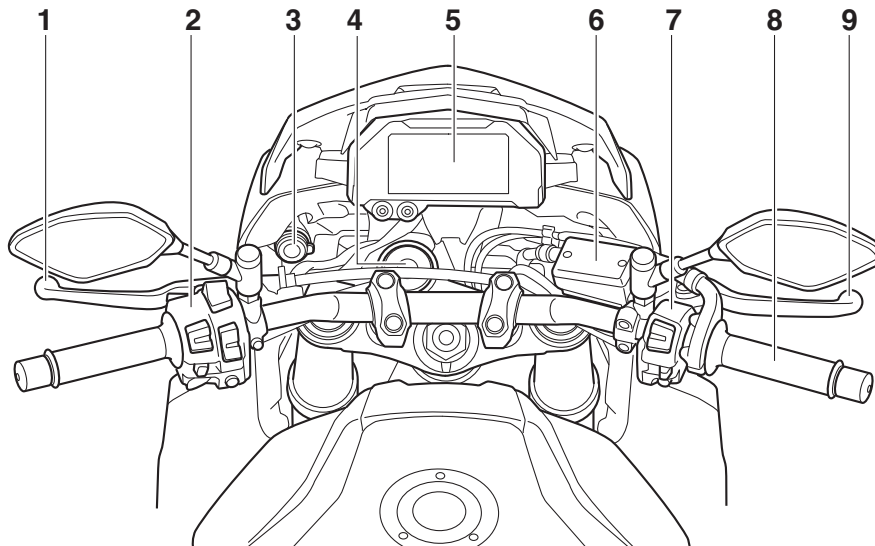


1. バッテリー (P7-13)
2. サービスツール (P7-2)
3. フューエルタンクキャップ (P4-17)
4. スプリングプリロードアジャスター (P4-19)
5. 伸側減衰力アジャスター (P4-19)
6. 圧側減衰力アジャスター (P4-19)
7. リカバリータンク (P7-5)
8. オイル注入口 (P7-2)
9. ブレーキペダル (P7-8)

10. リアブレーキリザーバータンク (P7-10)

運転装置と計器類

2



1. クラッチレバー (P7-8)
2. ハンドルスイッチ (左) (P4-3)
3. DC ジャック (P4-24)
4. メインスイッチ / ハンドルロック (P4-2)
5. マルチファンクションメーター (P4-8)
6. フロントブレーキリザーバータンク (P7-10)
7. ハンドルスイッチ (右) (P4-3)
8. スロットルグリップ
9. ブレーキレバー (P7-8)

クルーズコントロールシステム


JAU80611

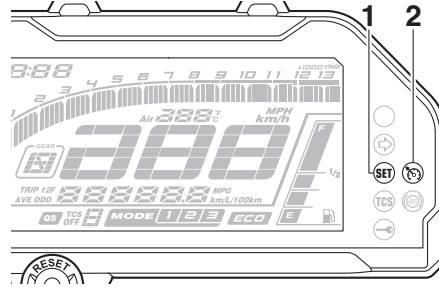
この車は、一定の速度を維持するためのクルーズコントロールシステムを装備しています。


クルーズコントロールシステムは、約 50 km/h ~ 100 km/h の間で走行しているときにのみ作動します。

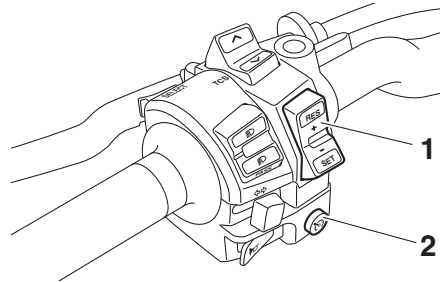
JWA20830


警告

- 法定速度を守って走行してください。
- クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。
- 上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。
- クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。クルーズコントロールシステム表示灯“”が消灯していることを確認してください。





1. クルーズコントロール設定表示灯 “SET”
2. クルーズコントロールシステム表示灯 “”



1. クルーズコントロール設定スイッチ “RES+ / SET-”
2. クルーズコントロール電源スイッチ “”

クルーズコントロールシステムの作動と設定

1. クルーズコントロール電源スイッチ “” を押します。クルーズコントロー

ルシステム表示灯 “” が点灯します。

2. クルーズコントロール設定スイッチの “SET-” 側を押して、クルーズコントロールシステムを作動させます。現在の走行スピードがクルージングスピードとして設定され、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯します。

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムの作動中、クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET-” 側を押すと設定したクルージングスピードが減少します。

要点

設定スイッチを 1 度押すごとに、設定スピードが約 2.0 km/h 変化します。クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側または “SET-” 側を押したまま保持すると、スイッチをはなすまで、スピードが連続的に増加または減少します。

走行スピードは、スロットルを使用して手動でも増加することができます。加速した後、設定スイッチの “SET-” 側を押すと、新しくクルージングスピードの設定ができます。新しくクルージングスピードの設定をしな

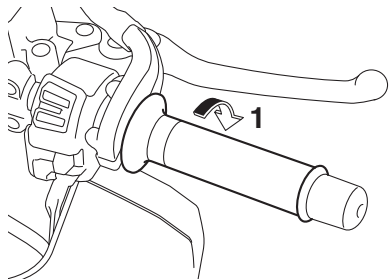
車両の特徴

い場合、スロットルグリップを戻すと、車両は前回設定したクルージングスピードまで減速します。

クルーズコントロールシステムの停止


設定したクルージングスピードを取り消すには、次のいずれかの操作を行います。この操作を行うと、クルーズコントロール設定表示灯“SET”が消灯します。

- スロットルグリップを、全開位置よりさらに減速方向に回します。



1. 減速方向

- フロントブレーキまたはリアブレーキをかけます。
- クラッチを切ります。

電源スイッチを押して、クルーズコントロールシステムをオフにします。クルーズコントロールシステム表示灯“”およびクルー

ズコントロール設定表示灯“SET”が消灯します。

要 点

クルーズコントロールシステムを停止したとき、スロットルグリップを回さないと、すぐに走行スピードが減少します。

再開機能の使用法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール設定スイッチの“RES+”側を押します。走行スピードが前回設定したクルージングスピードに戻り、クルーズコントロール設定表示灯“SET”が点灯します。

JWA16351

警告


前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。


要 点


システムの作動中に電源スイッチを押すと、システムは完全にオフになり、前回設定したクルージングスピードが消去されます。再開機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。


クルーズコントロールシステムの自動停止

このモデルのクルーズコントロールシステムは電子制御されており、その他のコントロールシステムとリンクされています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件で自動的に停止します。

- クルーズコントロールシステムが、設定したクルージングスピードを維持できない場合。
- ホイールのスリップまたはホイールのスピニングが検出された場合。(トラクションコントロールシステムをオフにしていない場合は、トラクションコントロールシステムが作動します。)
- スターター／エンジンストップスイッチを“”にした場合。
- エンジンがストールした場合。
- サイドスタンドが下げられた場合。

設定したクルージングスピードで走行中に、クルーズコントロールシステムが上記の条件で停止した場合、クルーズコントロールシステム表示灯“”は消灯し、クルーズコントロール設定表示灯“SET”は4秒間点滅してから消灯します。

設定したクルージングスピードで走行していない場合は、スターター／エンジンストップスイッチを“”位置に設定すると、エ

ンジンがストールするほか、サイドスタンドが下げられると、クルーズコントロールシステム表示灯“

クルーズコントロールシステムが自動的に停止した場合は、停車してから車両が運転に適した状態であることを確認してください。クルーズコントロールシステムは、電源スイッチを使用して作動させてから再度使用してください。

要 点

- 上り坂または下り坂を走行する際、クルーズコントロールシステムは場合により、設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。
- 上り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な走行スピードまで加速してください。
- 下り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。この場合、設定スイッチを使用して設定済のクルージングスピードを調整することはできません。

JAU74053

D-mode（ドライブモード）

D-modeは電子制御により、3つの走行モードを選択できるシステムです。

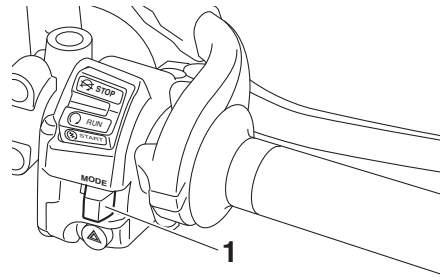
モード1は最もアグレッシブなスロットルレスポンスを、モード2は標準的なスロットルグリップおよびエンジンレスポンスを発揮し、モード3は雨天時や低めのエンジン出力が望まれるときに適しています。

JWA15341



警告

走行中はドライブモードスイッチを操作しないでください。



1. ドライブモードスイッチ “MODE”

ドライブモードを切り替えるときは、スロットルグリップを閉じてください。

要 点

- 選択されたモードは、マルチファンクションメーターに表示されます。（4-11 ページ参照）
- 選択されたモードは、車両の電源がOFFになっても記憶されます。

要 点

ドライブモードスイッチをご使用になる前に、各モードの特長と操作内容を充分理解してから操作してください。

車両の特徴

3

JAU73914

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステム (TCS) は、未舗装または濡れた道路のような滑りやすい路面で加速するとき、加速時の駆動力を効率良く路面に伝達する働きをします。

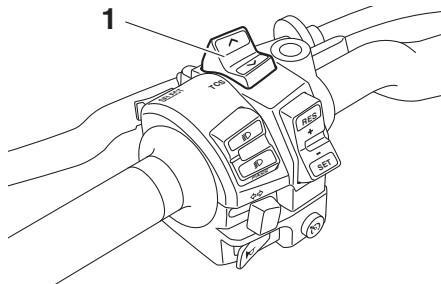
JWA15433



警告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

トラクションコントロールシステムの設定

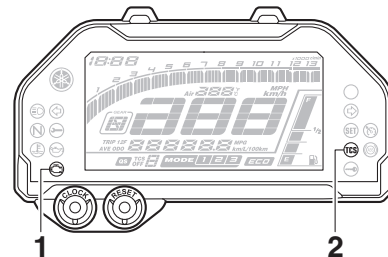


1. トラクションコントロールシステムスイッチ "TCS"

スロットルを全閉にしてスイッチを上下に押し、トラクションコントロールシステムの設定を TCS "1"、TCS "2" または TCS "3" に切り替えできます。停車中にスイッチを上側へ 2 秒間押し、トラクションコントロールシステムを "OFF" にできます。再度 TCS を ON にするときは、スイッチを下側へ押しします。

要 点

現在の TCS の設定は、トラクションコントロールシステム表示で確認できます (4-11 ページ参照)。



1. エンジン警告灯 "🛢️"
2. トラクションコントロールシステム表示灯 "TCS"

トラクションコントロールが作動すると、"TCS" 表示灯が点滅します。また、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。

トラクションコントロールシステムが解除されると、"TCS" 表示灯と "🛢️" 警告灯の両方が点灯します。

トラクションコントロールシステム表示 (4-11 ページ参照) は現在の TCS の設定を表示します。これには以下の 4 つの設定があります。

TCS "OFF"

トラクションコントロールシステムは OFF になっています。

JCA16801

TCS “1”

トラクションコントロールシステムの効果が最小になっています。

TCS “2”

トラクションコントロールシステムの効果は滑らかに作動する設定になっています。通常の走行に適しています。

TCS “3”

トラクションコントロールシステムの効果が最大になっています。タイヤの空転が最も強力に制御されます。雨の場合や滑りやすい路面の走行などに適しています。

要 点

- トラクションコントロールシステムのON/OFFは、停車しているときのみ切り替えられます。
- メインスイッチを“ON”にすると、最後に設定されていたTCS “1”、TCS “2”またはTCS “3”の設定になります。
- 車両が泥や砂などの軟らかい地面にはまったとき、トラクションコントロールシステムをOFFにすると、抜け出しやすくなる場合があります。


注 意

必ず指定タイヤを使用してください。(7-6ページ参照) 指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

トラクションコントロールシステムの自動解除とリセット

以下ようになった場合、トラクションコントロールシステムは自動的に解除されます。

- 乗車中に前輪または後輪が地面から離れたとき
- 乗車中に後輪の過度な空転が検知されたとき
- 整備の際などに、メインスイッチが“ON”のまま、前後どちらかの車輪が回転したとき

トラクションコントロールシステムが解除されると、“TCS”表示灯と“”警告灯の両方が点灯します。

この場合、次のようにしてリセットしてください。


- 1.車を止め、メインスイッチを“OFF”にします。
- 2.2～3秒待ってから、メインスイッチを

再び“ON”にします。

- 3.“TCS”表示灯が消灯し、システムが有効になります。

要 点

リセット操作後も“TCS”表示灯が点灯したままの場合、乗車は可能ですが、できるだけ早くヤマハ販売店で点検を受けてください。

- 4.ヤマハ販売店で点検を受けて“”警告灯を消灯してもらいます。

車両の特徴

JAU79481

クイックシフトシステム

クイックシフトシステムは電子制御によりスロットルを閉じず、クラッチレバーを操作しなくてもシフトアップを可能にするシステムです。シフトスイッチがシフトペダルの操作を感知すると (4-15 ページ参照)、エンジン出力や駆動力が一瞬で自動調整されてシフトアップが可能となります。

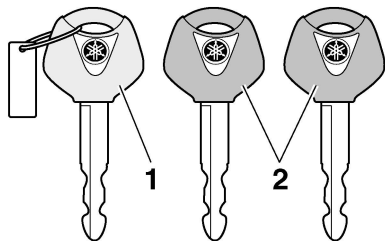
要 点

クイックシフトシステムは車の速度が 20 km/h以上でエンジン回転数が2000 r/min以上、かつ加速中の場合のみ作動します。クラッチレバーを操作した場合、クイックシフトシステムは作動しません。

キーの取り扱い

JAU33073

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。

また、3本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。

- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含まれます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。IDの認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮

製のものをお勧めします。

各部の取り扱いと操作

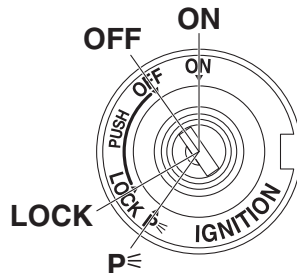
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 4-7 ページを参照してください。）

4

メインスイッチ



JAU10462

メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気システムの作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU85850

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

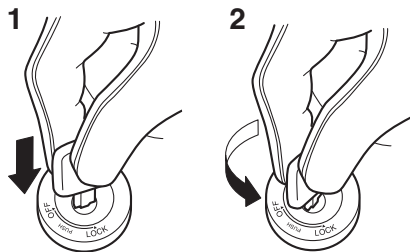
OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



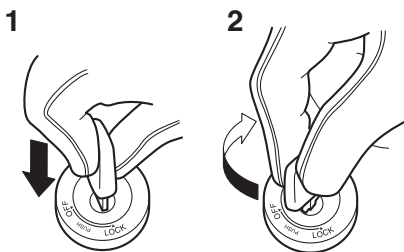
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

p< (パーキング)

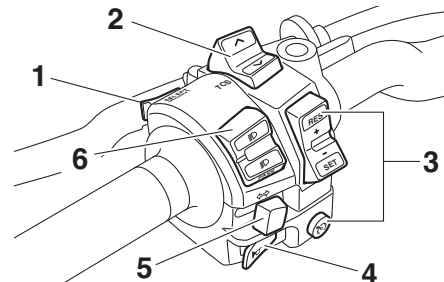
ハザードランプと方向指示灯を点灯させることができますが、その他の電気回路はオフになります。キーを抜くことができます。キーを p< にする前に、ハンドルをロックしてください。

注 意

ハザードランプおよび方向指示灯の長時間の使用は、バッテリーあがりの原因になります。

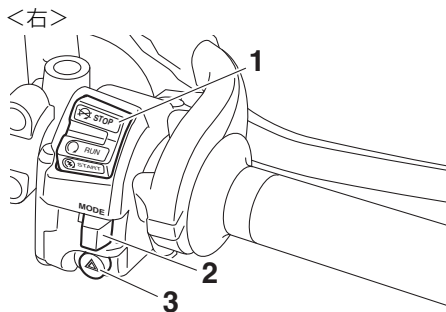
ハンドルスイッチ

<左>



1. セレクトスイッチ “SELECT”
2. トラクションコントロールシステムスイッチ “TCS”
3. クルーズコントロールスイッチ
4. ホーンスイッチ “”
5. 方向指示器スイッチ “/”
6. ヘッドライト上下切り替え / パッシングライトスイッチ “//PASS”

各部の取り扱いと操作



1. スターター／エンジストップスイッチ “/ / ”
2. ドライブモードスイッチ “MODE”
3. ハザードスイッチ “”

JAU73924

ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ “/ / PASS”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。

(上向き)：遠くを照らします。

(下向き)：近くを照らします。

要 点

- (下向き) のときは左側 1 灯が点灯、 (上向き) のときは左右両側が点灯します。

- 先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

ヘッドライトの配光が下向きのときに “PASS” 側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

JAU66040

方向指示器スイッチ “/ ”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

：右側の方向指示灯が点滅します。

：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU66030

ホーンスイッチ “”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU73961

トラクションコントロールシステムスイッチ “TCS”

トラクションコントロールシステムの説明や設定については、3-4 ページを参照してください。

JAU66060

スターター／エンジストップスイッチ “/ / ”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “” に合わせてから、スイッチを “” まで押してください。

JCA11882

注意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには “” にします。通常は “” にしておきます。

警告

JWA17700

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA20771

注意

- 非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ず車両の電源をオフにしてください。オンのままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを“○”→“⊗”→“○”にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。

要点

“⊗”にすると、エンジンは始動できません。

JAU66010

ハザードスイッチ “▲”

メインスイッチを ON または p_レにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプ

を点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU73951

クルーズコントロールスイッチ

クルーズコントロールシステムの説明については、3-1 ページを参照してください。

JAU73943

セレクトスイッチ “SELECT”

このスイッチは、マルチファンクションメーターのオドメーター、トリップメーター、水温表示と気温表示の変更を行うときに使用します。

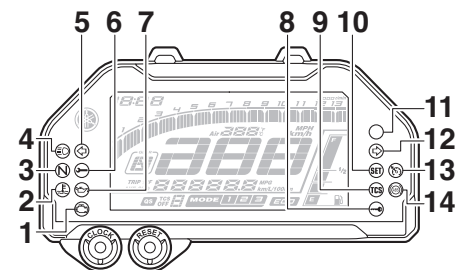
詳しくは、4-8 ページのマルチファンクションメーターを参照してください。

JAU73931

ドライブモードスイッチ “MODE”

ドライブモードの説明や設定については、3-3 ページを参照してください。

警告灯と表示灯



1. エンジン警告灯 “”
2. 水温警告灯 “”
3. ニュートラルランプ “N”
4. ヘッドライト上向き表示灯 “”
5. 方向指示器表示灯 (左) “”
6. ステアリングダンパー警告灯 “”
7. 油圧警告灯 “”
8. イモビライザーシステム表示灯 “”
9. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
10. クルーズコントロール設定表示灯 “SET”
11. シフトタイミングインジケータランプ
12. 方向指示器表示灯 (右) “”
13. クルーズコントロールシステム表示灯 “”
14. ABS 警告灯 “”

方向指示器表示灯 “” / “”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11032

各部の取り扱いと操作

ニュートラルランプ “N”

JAU11061

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

JAU11081

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU59963

油圧警告灯 “ ”

エンジンの油圧が低くなると点灯します。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、一時的に消灯します。その後、エンジンを始動するまで点灯しています。車両の電源をオンにしても警告灯が点灯しないときは、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JCA21211

注 意

エンジン運転中に油圧警告灯が点灯した場合は、エンジンを停止し、エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が不足しているときは、エンジンオイルを補給してください。補給したあとも警告灯が消灯しない場合は、エンジンを停止し、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

クルーズコントロール表示灯 “ ” / “SET”

JAU74073

これらの表示灯は、クルーズコントロールシステムが有効になると点灯します。(3-1 ページ参照)

要 点

車両の電源をオンにしたとき、これらの表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。点灯しない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

水温警告灯 “ ”

JAU11449

エンジン冷却水が規定温度以上になったとき、警告灯が点灯します。このときは、エンジンを止めて冷やしてください。ラジエーターファンのあるモデルは、ラジエーター内の冷却水の温度に応じて、ラジエーターファンが自動的に作動します。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しないときや、点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けしないでください。

JAU73172

エンジン警告灯 “ ”

エンジンや車両制御の電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU69895

ABS 警告灯 “ ”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

JWA16043

警告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき

- 急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。
- 直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

トラクションコントロールシステムが作動すると点滅し、OFFになると点灯します。

要 点

- メインスイッチをONにしたとき、表示灯が約2秒間点灯し、その後消灯します。
- メインスイッチをONにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

ステアリングダンパー警告灯 “”

ステアリングダンパーに異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

メインスイッチをONにしたとき、警告灯の電気回路の診断が行われ、警告灯が約2秒間点灯し、その後消灯します。

メインスイッチをONにしても点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

シフトタイミングインジケータランプ

設定されたエンジン回転数になると点灯または消灯し、シフトアップのタイミングをお知らせします。(詳しくは 4-13 ページを参照してください。)

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

イモビライザーシステム表示灯 “”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約30秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約24時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーキーの認証エラー

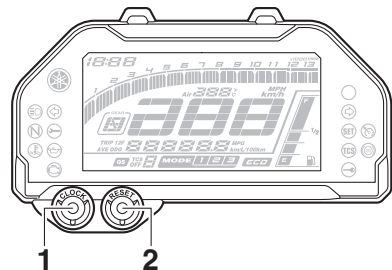
イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり5回、すばやく2回の点滅を繰り返すときは、キーのIDの認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と3本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

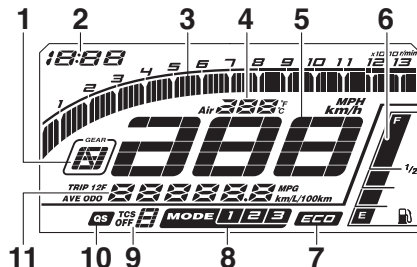
各部の取り扱いと操作

JAU80622

マルチファンクションメーター



1. “CLOCK” ボタン
2. “RESET” ボタン



1. ギヤポジション表示
2. 時計
3. タコメーター
4. 水温／気温表示
5. スピードメーター
6. 燃料計
7. エコ表示
8. ドライブモード表示
9. トラクションコントロールシステム表示
10. クイックシフトシステム表示
11. マルチファンクションディスプレイ

- スピードメーター
- タコメーター
- 時計
- 燃料計
- 水温／気温表示
- エコ表示
- ギヤポジション表示
- ドライブモード表示
- トラクションコントロールシステム表示
- クイックシフトシステム表示
- マルチファンクションディスプレイ

要 点

スピードメーターやマルチファンクションディスプレイの表示は、“CLOCK” ボタンと“RESET” ボタンを同時に押すことで、キロメートル単位かマイル単位かを切り替えることができます。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

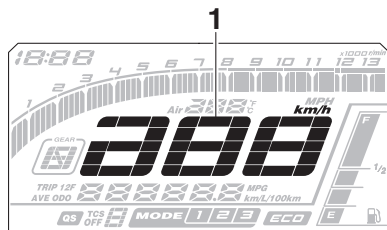
JWA12423

警告

マルチファンクションメーターの設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

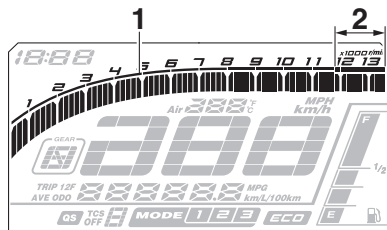
マルチファンクションメーターには以下の機能があります。

スピードメーター



1. スピードメーター
車の速度を示します。

タコメーター



1. タコメーター
 2. レッドゾーン
- 毎分のエンジン回転数を示します。
電気回路のチェックのため、メインスイッチ

を ON にすると、セグメントが一旦最大値まで動き、0 に戻ります。

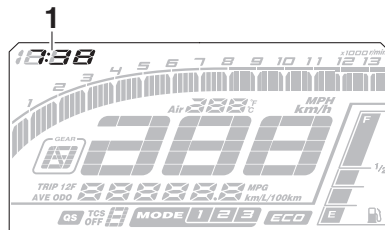
JCA10032

注意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。

レッドゾーン: 11800 r/min 以上

時計



1. 時計

この時計は 12 時間表示です。

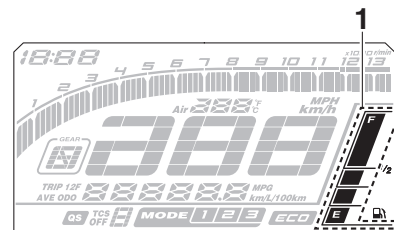
時刻調整のしかた

1. メインスイッチを ON にします。
2. “CLOCK” ボタンを2秒以上押します。
3. <時>の表示が点滅したら、“RESET” ボタンを押して<時>を合わせます。
4. “CLOCK” ボタンを押すと、<分>の表示が点滅します。

5. “RESET” ボタンを押して<分>を合わせます。

6. “CLOCK” ボタンを押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。


燃料計



1. 燃料計

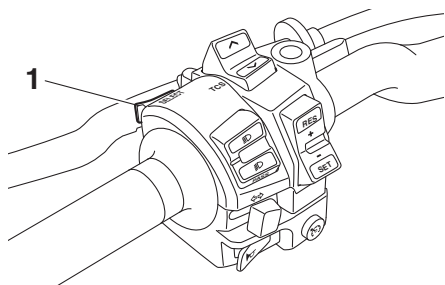
フューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントが“F”（満）から“E”（空）方向に消えていきます。最後のセグメントが点滅を始めたら、早めに補給してください。

要点

電気回路に異常が検出された場合、燃料計のセグメントと燃料残量警告表示“”が点滅を繰り返します。この場合は、ヤマハ販売店に電気回路の点検を依頼してください。

各部の取り扱いと操作

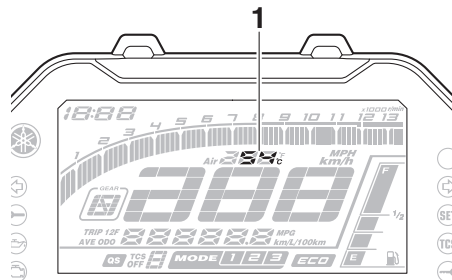
水温／気温表示



1. セレクトスイッチ “SELECT”

“SELECT” スイッチを2秒以上押すと水温表示 “°C” と気温表示 “Air” / “°C” を切り替ええます。

水温表示



1. 水温表示

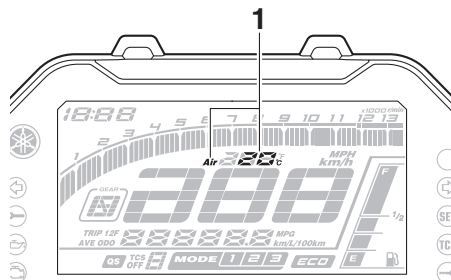
40 °C から 124 °C の水温を 1 °C 刻みで表示します。

“Hi” が点滅した場合、エンジンを止めて冷やしてください。

要 点

- 水温が40 °C未満の場合、“Lo” が表示されます。
- 水温は、気象条件およびエンジン負荷により変化します。

気温表示



1. 気温表示

-9 °C から 50 °C の気温を 1 °C 刻みで表示します。

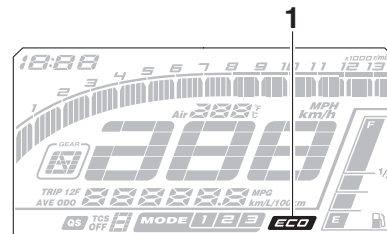
要 点

- 気温が -9 °C を下回った場合にも、-9 °C

と表示されます。

- 表示される温度は、外気温と一致していない場合があります。

エコ表示



1. エコ表示

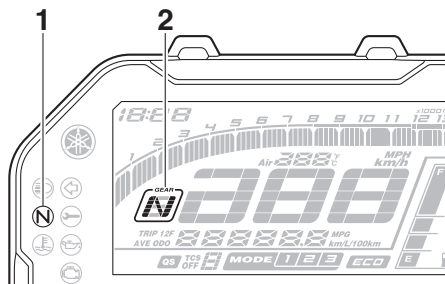
この表示は、環境にやさしく、燃費の良い状態で車両を運転している場合に点灯します。表示は車両が停止すると消灯します。

要 点

燃費を抑えるには、次のことを心がけて運転してください。

- 加速中にエンジン回転数を高くしない。
- 一定の速度で走行する。
- 速度に適したギヤを選択する。

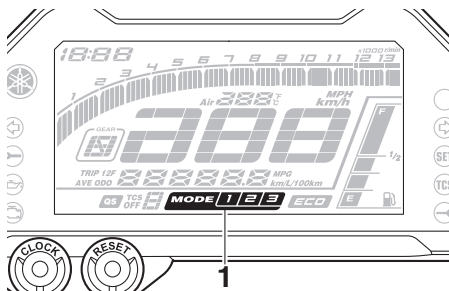
ギヤポジション表示



1. ニュートラルランプ “N”
2. ギヤポジション表示

選択しているギヤポジションを表示します。ギヤがニュートラルのときは、“N”を表示し、ニュートラルランプが点灯します。

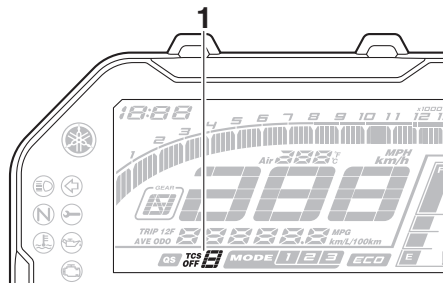
ドライブモード表示



1. ドライブモード表示

“1”、“2”または“3”のうち、選択されたドライブモードを表示します。(詳しくは 3-3 ページを参照してください。)

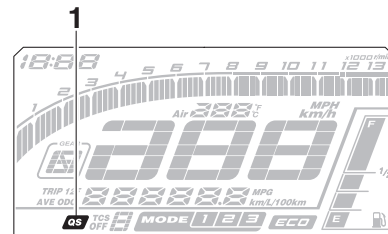
トラクションコントロールシステム表示



1. トラクションコントロールシステム表示

“1”、“2”、“3”または“OFF”のうち、選択されたトラクションコントロールシステムのモードを表示します。トラクションコントロールシステムや設定についての詳細は、3-4 ページを参照してください。

クイックシフトシステム表示



1. クイックシフトシステム表示

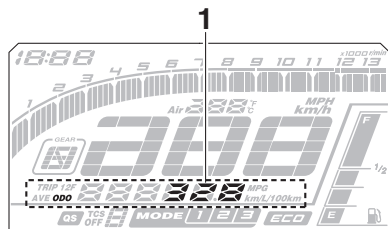
メインスイッチを“ON”にするとクイックシフトシステム (3-6 ページ) が ON になり、この表示が点灯します。

要 点

クイックシフトシステムに異常が検出された場合、この表示は消灯してクイックシフトシステムは作動しなくなります。この場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

マルチファンクションディスプレイ



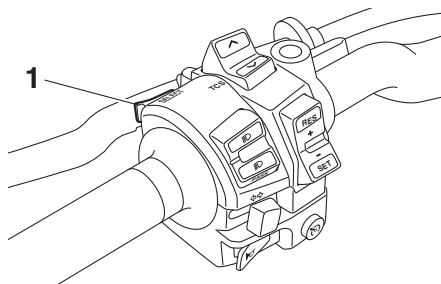
1. マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP 1/TRIP 2)
- フューエルトリップメーター (TRIP F)
- 燃費計算
- メーターとシフトタイミングランプの明るさ調節表示

要 点

- オドメーターは、最大値 (999999 km) を超えると最大値で固定されます。
- トリップメーターは、最大値 (9999.9km) を超えるとリセットされ、計測を継続します。



1. セレクトスイッチ “SELECT”

“SELECT” スイッチを押すごとに、オドメーター “ODO”、トリップメーター “TRIP 1”、“TRIP 2”、瞬間燃費表示 “km/L” または “L/100 km”、平均燃費表示 “AVE --- km/L” または “AVE --- L/100 km” が下記の順で切り替わります。

ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → km/L または L/100 km → AVE --- km/L または AVE --- L/100 km → ODO

燃料計の残りの1セグメントが点滅を始めると、表示は自動的にフューエルトリップメーター “TRIP F” に切り替わり、その時点からの走行距離を表示します。このとき

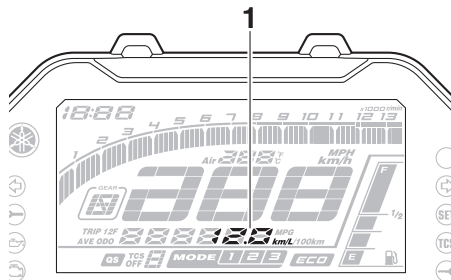
“SELECT” スイッチを押すと、表示が下記の順で切り替わります。

TRIP F → km/L または L/100 km → AVE --- km/L または AVE --- L/100 km → ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP F

要 点

- トリップメーターのリセットは、“SELECT” スイッチを押してリセットしたいトリップメーターを表示させてから “RESET” ボタンを 2 秒以上押します。
- フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的にリセットされて表示されなくなります。

瞬間燃費表示



1. 瞬間燃費表示

瞬間燃費の表示は、“km/L”または“L/100 km”を表示することができます。

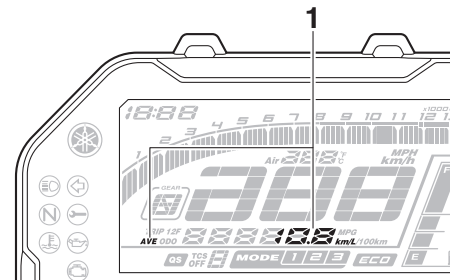
- “km/L”：現在の走行条件で燃料 1.0 L を使って走行可能な距離が表示されます。
- “L/100 km”：現在の走行条件で 100 km 走行するために必要な燃料の量が表示されます。

“km/L”表示と“L/100 km”表示を切り替えるには、“CLOCK”と“RESET”ボタンを同時に押します。

要 点

20 km/h 未満の速度で走行している場合は、“---”と表示されます。

平均燃費表示



1. 平均燃費表示

最後にリセットした地点からの平均燃費を表示します。

平均燃費の表示は、“AVE --- km/L”または“AVE --- L/100 km”を表示することができます。

- “AVE --- km/L”：燃料 1.0 L を使って走行可能な平均距離が表示されます。
- “AVE --- L/100 km”：100 km 走行するために必要な燃料の平均量が表示されます。

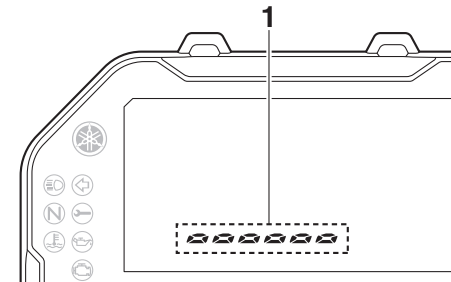
“km/L”表示と“L/100 km”を切り替えるには、“CLOCK”と“RESET”ボタンを同時に押します。

要 点

平均燃費表示のリセット後は、車両が 1 km

走行するまで“---”と表示されます。

メーターとシフトタイミングランプの明るさ調節表示



1. 明るさ調節表示

このモードでは 5 つの制御機能が切り替わり、以下の順序で設定を行うことができます。

- メーターの明るさ：この機能はメーターの明るさを調節できます。
- シフトタイミングランプ作動設定：この機能はシフトタイミングインジケータランプを点灯させるかさせないか、そして点灯させる場合は、点滅させるか点灯させるかの選択ができます。
- シフトタイミングランプ点灯設定：シフトタイミングランプを点灯または点

各部の取り扱いと操作

4

減させるエンジン回転数を設定できます。

- シフトタイミングランプ消灯設定：
シフトタイミングランプを消灯させるエンジン回転数を設定できます。
- シフトタイミングランプ明るさ設定：
シフトタイミングランプの明るさを設定できます。

要 点

メーターとシフトタイミングランプの明るさ調節表示は設定された明るさを表示します。

メーター照明の調節

1. メインスイッチを“OFF”にします。
2. “CLOCK” ボタンを押し続けます。
3. メインスイッチを“ON”にして、5秒後に“CLOCK” ボタンをはなします。
4. “RESET” ボタンを押して明るさを調節します。
5. “CLOCK” ボタンを押して選択した明るさを決定します。調節機能はシフトタイミングランプ作動設定に切り替わりません。

シフトタイミングランプ作動設定

1. “RESET” ボタンを押して、次の作動設定の中から1つを選択します。
 - シフトタイミングランプが作動したと

きに点灯させる。(この設定を選択するには、シフトタイミングランプが点灯しているときに“RESET” ボタンを押します。)

- シフトタイミングランプが作動したときに点滅させる。(この設定を選択するには、シフトタイミングランプが1秒間に4回点滅しているときに“RESET” ボタンを押します。)
- シフトタイミングランプを作動させない。(この設定を選択するには、シフトタイミングランプが2秒間に1回点滅しているときに“RESET” ボタンを押します。)

2. “CLOCK” ボタンを押して、作動設定を決定します。同時にシフトタイミングランプの点灯設定に切り替わります。

シフトタイミングランプ点灯設定

要 点

シフトタイミングランプの点灯時期はエンジン回転数が7000～13000 r/minの間で設定できます。点灯時期は200 r/min まで設定することができます。

1. “RESET” ボタンを押して、シフトタイミングランプを点灯または点滅させたエンジン回転数を選択します。

2. “CLOCK” ボタンを押して、点灯設定を決定します。同時にシフトタイミングランプの消灯設定に切り替わります。

シフトタイミングランプ消灯設定

要 点

- シフトタイミングランプの消灯時期はエンジン回転数が7000～13000 r/minの間で設定できます。消灯時期は200 r/min まで設定することができます。
- 消灯設定は点灯設定よりも高いエンジン回転数で設定してください。消灯設定の回転数が点灯設定の回転数より低いとシフトタイミングランプは点灯も点滅もしません。

1. “RESET” ボタンを押して、シフトタイミングランプを消灯させたいエンジン回転数を選択します。
2. “CLOCK” ボタンを押して、消灯設定を決定します。同時にシフトタイミングインジケータランプの明るさ設定に切り替わります。

シフトタイミングランプ明るさ設定

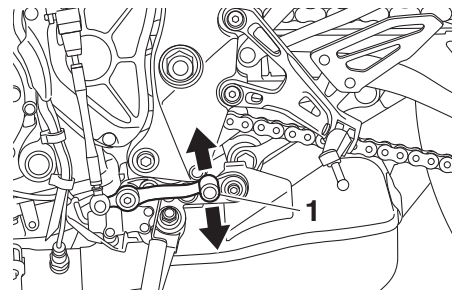
1. “RESET” ボタンを押して、明るさを設定します。
2. 好みの明るさになったら“CLOCK” ボタンを押して、明るさを決定します。各

種の設定が保存され、メーターとシフトタイミングランプの明るさ調節表示に戻ります。

盗難警報器 (別売アクセサリ)

この車には、別売アクセサリの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

シフトペダル



1. シフトペダル

シフトペダルは車両の左側にあります。シフトアップするには、シフトペダルを上動かす、シフトダウンするには、シフトペダルを下動かします。(6-2 ページ参照)

要 点

クイックシフトシステムがオンのとき、シフトスイッチがシフトペダルの動きを検知して自動的にクラッチの断続を行うため、クラッチレバーを操作しなくてもシフトアップが可能です。

各部の取り扱いと操作

4

ABS

JAU63040

この車の ABS (アンチロックブレーキシステム) は、フロントブレーキとリアブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU (エレクトロニックコントロールユニット) によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

警告

- ABS は制動距離を短くする装置ではありません。
- 未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。

要点

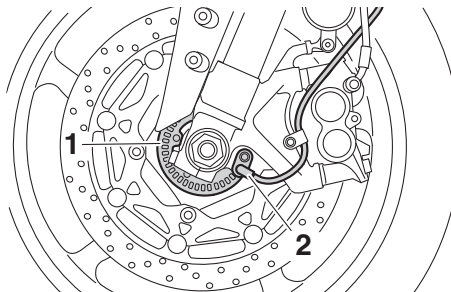
- ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- この ABS には、ABS が作動している状態 (ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じる) を体感できるテストモード

があります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

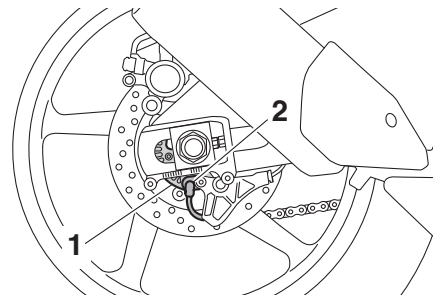
JCA20100

注意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー



1. リアホイールセンサーローター
2. リアホイールセンサー

フューエルタンクキャップ

JAU13076

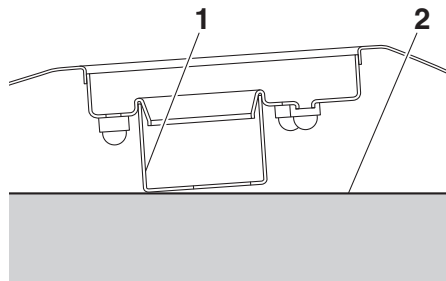
JWA12172

警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

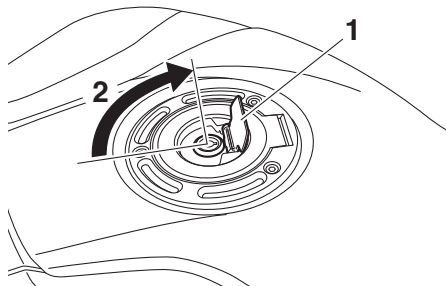
- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィルターチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に

に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーをロックに差し込み、時計方向に

1/4 回してロックを解除します。

3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーをロックに差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押し閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることができません。

各部の取り扱いと操作

燃料

指定燃料

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 17 L

JAU31461

JAU28333

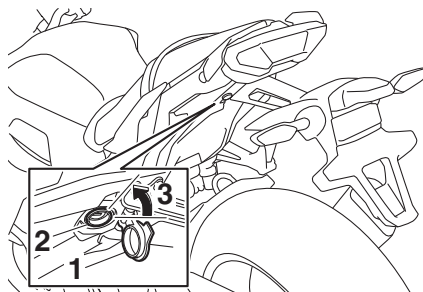
JCA12512

注意

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

シート シートの取り外しかた

1. シートロックカバーを開いてキーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。

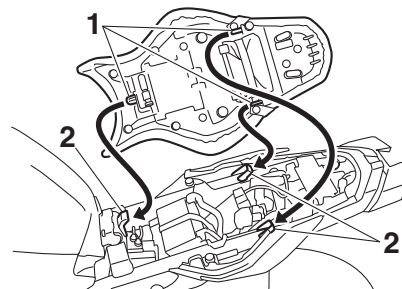


1. シートロックカバー
 2. シートロック
 3. 解除
2. キーを回した状態でシートを後方へスライドさせ、シートの後部を持ち上げ、シートを取り外します。

シートの取り付けかた

1. シートの突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。

JAU57992



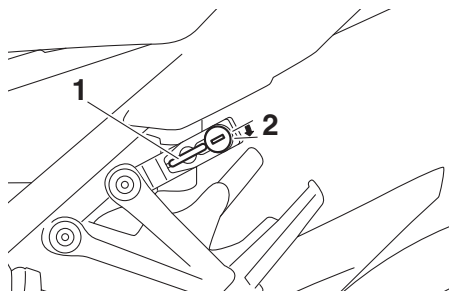
1. 突起
 2. シートホルダー
2. シートの後部を押し、シートをロックします。
 3. キーを抜き取り、ロックカバーを閉めます。

要 点

走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

ヘルメットホルダー

JAU14283



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのおごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

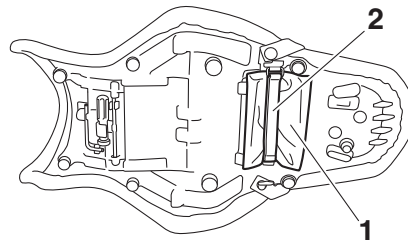
要点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

書類入れ

JAU33142

シートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。（4-18 ページ参照）車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにし、ゴムバンドで固定してください。



1. 書類入れ
2. ゴムバンド

フロントフォークの調整

JAU70413

左右のフロントフォークには、スプリングブリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスター、圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA14671

警告

スプリングブリロードアジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

JCA22471

注意

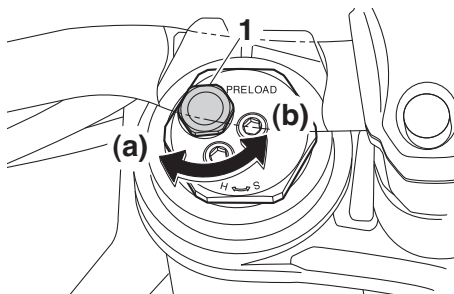
- サスペンション調整時には、ゴールドアルマイト処理された表面を傷つけないよう、細心の注意を払ってください。
- サスペンションの内部構造へのダメージを避けるため、最大もしくは最小の設定値を超えて回さないでください。

スプリングブリロード

ブリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングブリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。

スプリングブリロードの調整は、アジャスターを (b) 方向に止まるまで回し、(a) 方向へ戻す回転数を数えて行います。

各部の取り扱いと操作



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：

最小（ソフト）：

(a) 方向へ 0 回転

標準：

(a) 方向へ 9 回転

最大（ハード）：

(a) 方向へ 15 回転

要 点

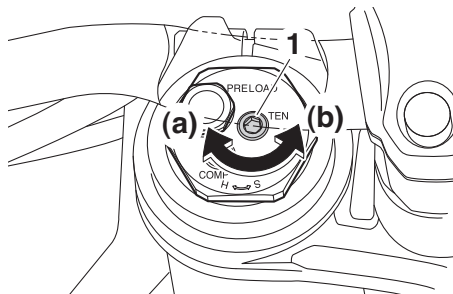
アジャスターを (a) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、スプリングプリロードに変化はありません。調整範囲内で使用してください。

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱く

なります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：

最小（ソフト）：

(b) 方向へ 14 段

標準：

(b) 方向へ 6 段

最大（ハード）：

(b) 方向へ 1 段

要 点

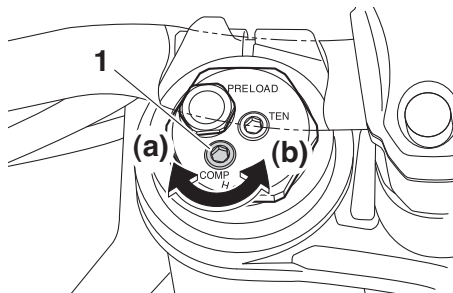
- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。

- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：

最小（ソフト）：

(b) 方向へ 23 段

標準：

(b) 方向へ 17 段

最大（ハード）：

(b) 方向へ 1 段

要 点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と1段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

リヤクッションの調整

JAU74243

JWA10222

警告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- シリンダー本体を加工または分解しないでください。
- リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。
- シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。
- 損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスター、圧側減衰力アジャスター（高速減衰時用）および圧側減衰力アジャスター（低速減衰時用）

が装備されています。

JWA12441

警告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

JCA11911

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

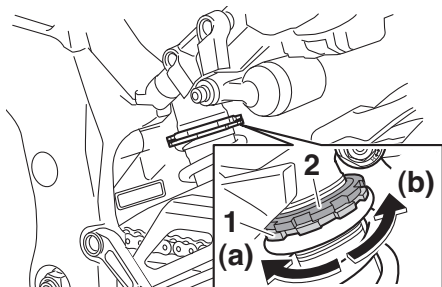
1. ロックナットをゆるめます。
2. プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは大きくなり、短くすると小さくなります。

要 点

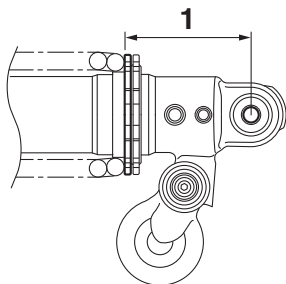
サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。

各部の取り扱いと操作

4



1. スプリングプリロードアジャスター
2. ロックナット



1. セット長 A

スプリングプリロード：

- 最小（ソフト）：
セット長 A = 77.5 mm
- 標準：
セット長 A = 81.5 mm
- 最大（ハード）：
セット長 A = 85.5 mm

3. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

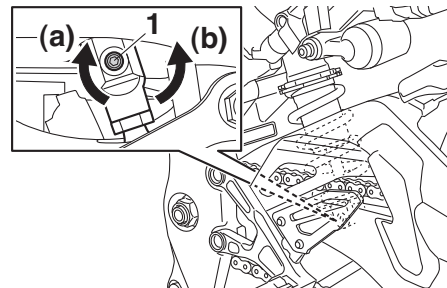
締め付けトルク：

- ロックナット：
25 N · m (2.5 kgf · m)

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：

- 最小（ソフト）：
(b) 方向へ 23 段
- 標準：
(b) 方向へ 11 段
- 最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要 点

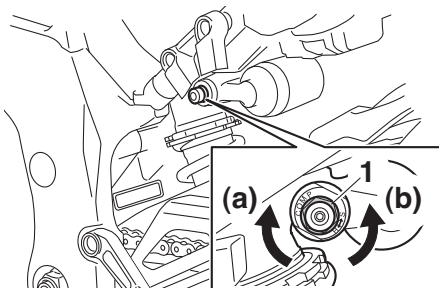
- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

圧側減衰力アジャスター（高速減衰時用）

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. 高速減衰時用圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力（高速減衰時用）：

最小（ソフト）：

(b) 方向へ 5.5 回転

標準：

(b) 方向へ 3 回転

最大（ハード）：

(b) 方向へ 0 回転

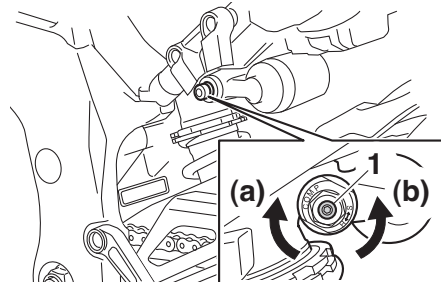
要 点

アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力アジャスター（低速減衰時用）

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 低速減衰時用圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力（低速減衰時用）：

最小（ソフト）：

(b) 方向へ 18 段

標準：

(b) 方向へ 12 段

最大（ハード）：

(b) 方向へ 1 段

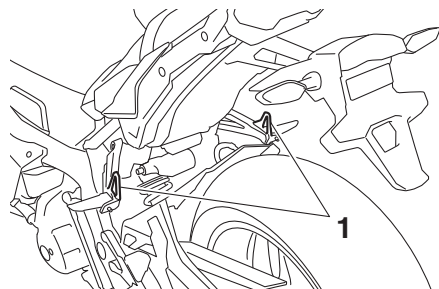
要 点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

各部の取り扱いと操作

荷掛けフック

JAU84680



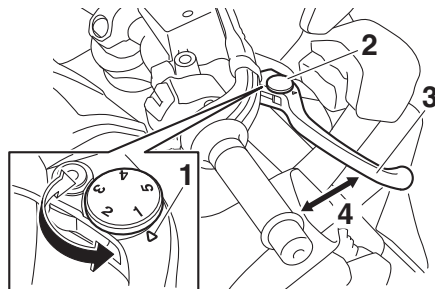
1. 荷掛けフック

図に示した荷掛けフックを使用し、荷物を固定します。

ブレーキレバーの握り調整

JAU45543

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が5段階に調整できます。握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



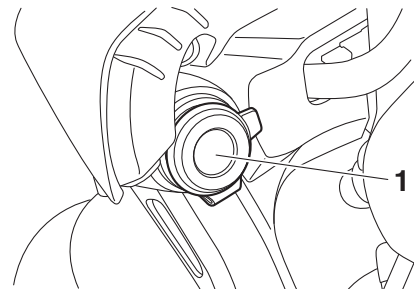
1. 合マーク
2. アジャスター
3. ブレーキレバー
4. 握り幅

要 点

アジャスターの数字と合マークを、必ず合わせてください。

DC ジャック

JAU49454



1. DC ジャックキャップ

DC ジャックに接続した 12V のアクセサリは、エンジンを始動した状態で使用します。

JCA15432

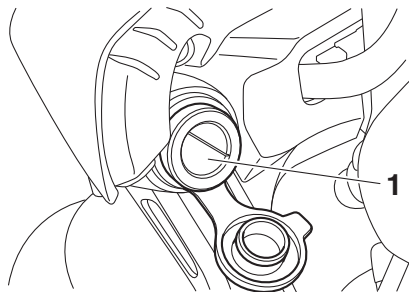
注 意

DC ジャックに接続するアクセサリは、エンジンが停止している場合には使用しないでください。また、接続負荷が 12 W (1.0 A) を決して超えないようにしてください。ヒューズ切れや、バッテリーあがりを起こす可能性があります。

DC ジャックの使いかた

1. メインスイッチを OFF にします。
2. DC ジャックキャップを取り外します。

3. アクセサリーをオフにします。
4. アクセサリーのプラグを DC ジャックに差し込みます。



1. DC ジャック
5. メインスイッチを ON にし、エンジンを始動します。(6-1 ページ参照)
6. アクセサリーをオンにします。

JWA14361

警告

感電または短絡を防止するため、DC ジャックを使用しない場合は、必ずキャップを取り付けてください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242

警告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU68280

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム(サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む)には次の機能があります。

- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11541

警告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

4

エンジンが停止した状態で：

1. サイドスタンドを下ろします。
2. スターター/エンジンストップスイッチを“○”にします。
3. メインスイッチをONにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スターター/エンジンストップスイッチを“⊕”まで押します。

エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：

6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。

エンジンは停止しましたか？

はい いいえ

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：

10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スターター/エンジンストップスイッチを“⊕”まで押します。

エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。
走行可能です。

JAU15599

JAU30142

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービストールの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適切であること。
タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ● タイヤの空気圧が適切であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷却水の量が適切であること。(※) ● エンジンオイルの量が適切であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適切であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	<ul style="list-style-type: none"> ● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11733

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

テリ一電圧を回復させるため、10秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

要 点

この車は、以下の機構を装備しています。

- メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。また、この機構が働くとき車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転してもエンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けるとバッテリー上がりになることがありますので、このような状態になった場合は、メインスイッチを一旦オフにして再度オンにするリセット操作をしてください。
- 車両が停止した状態で20分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

エンジン始動

警告

- エンジンを始動するときには、4-25ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。

1. 車両の電源をオンにし、スターター／エンジンストップスイッチが“○”にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチを“⊗”まで押して、エンジンを始動します。

要 点

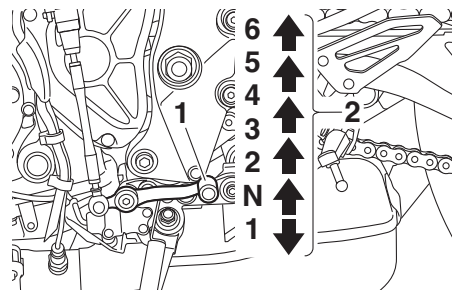
スターター／エンジンストップスイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッ

注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

ギヤチェンジのしかた

JAU77401



1. シフトペダル
2. ギヤの位置

この車はリターン式の6段変速です。

ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要 点

- ニュートラル (N) にシフトするには、繰り返しシフトダウンして 1 速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。
- この車はクイックシフトシステムを装備しています。(3-6 ページ参照)

注 意

- シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。
- クイックシフトシステムでシフトアップしているときを除き、クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

JCA23990

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

JAU64130

走行速度

- 1 速: 0 km/h-120 km/h
- 2 速: 20 km/h-145 km/h
- 3 速: 25 km/h-170 km/h
- 4 速: 30 km/h-180 km/h
- 5 速: 35 km/h-180 km/h
- 6 速: 40 km/h 以上

シフトダウン速度

- 6 速 → 5 速: 180 km/h 以下
- 5 速 → 4 速: 160 km/h 以下
- 4 速 → 3 速: 135 km/h 以下
- 3 速 → 2 速: 115 km/h 以下
- 2 速 → 1 速: 95 km/h 以下

JWA20720

警告

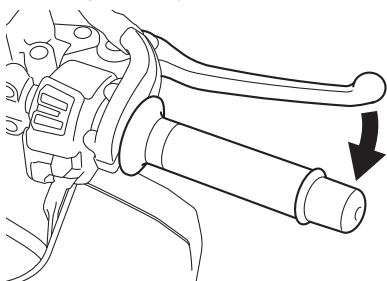
法定速度を守って走行してください。

ブレーキ

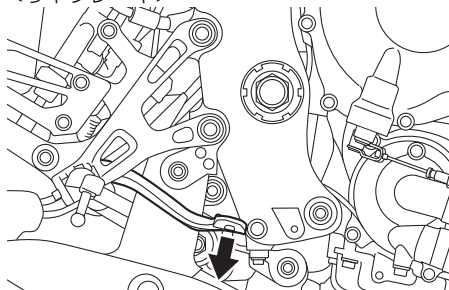
JAU33176

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリアブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リアブレーキ>



JWA11573

警告

- 急なブレーキ操作は避けてください (特に

どちらか一方に傾いているとき)。横すべりや転倒の原因となります。

- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JCA26500

注意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

ならし運転

JAU31471

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目 (または 1000 km 走行時) の点検までは、ならし運転をしてください。ならし運転中はエンジン回転数を 7100 r/min 以下で走行してください。また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

点検整備

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。

難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461

警告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリ

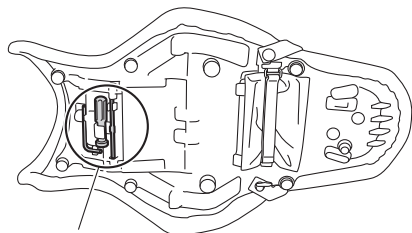
パー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が十分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

JAU85240



1

1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。また、車両購入時に別に手渡されるサービスツールがあります。

エンジンオイル エンジンオイル量の点検

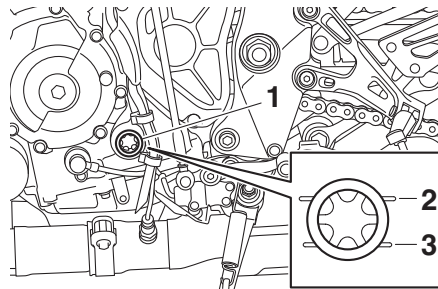
JAU90378

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。



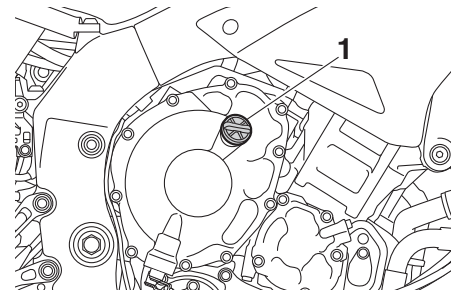
1. エンジンオイル点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジ

ンオイルについては、8-3 ページ参照)

要 点

Oリングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口

エンジンオイルの交換時期

JAU47504

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

10000 km 走行ごと、

または 1 年ごと

エンジンオイル量：

オイル交換時：

3.90 L

オイルフィルター取り外し時：

4.10 L

7 定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

30000 km 走行ごと

JWA11861

警告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12102

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルヤマルーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふ

きとってください。

エンジンのかかり具合、異音の点検

JAU30691

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がしないかを点検します。

低速、加速の状態の点検

JAU44194

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動すること、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱい切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

点検整備

冷却水

JAU20071

水を1対1で混ぜ合わせます。

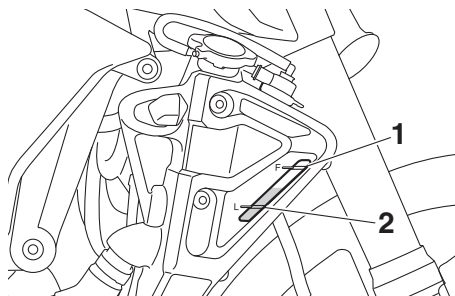
JAU30723

冷却水量の点検

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直に行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



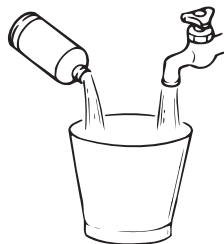
1. フルレベル
2. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマラップロングライフクーラントと水道



JWA11882

警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき
水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類についたとき
すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき
すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

注意

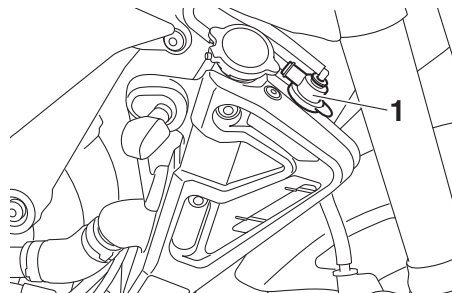
混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、

井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30812

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

JCA12121

注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

JAU36765

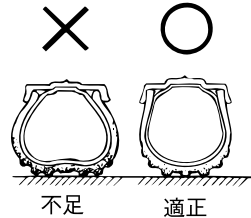
エアクリナーエレメントの交換

エアクリナーエレメントは、定期的な交換が必要です。

エアクリナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。

ほこりの多い場所や湿気が多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

タイヤ空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。

JAU65360

タイヤ空気圧 (冷間時) :

1 名乗車 :

前輪 :

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪 :

290 kPa (2.90 kgf/cm²)

2 名乗車 :

前輪 :

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪 :

290 kPa (2.90 kgf/cm²)

要 点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

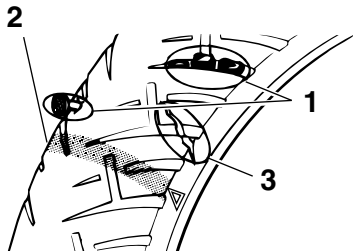
タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その

点検整備

他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーター

で点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。**

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：

前輪：

120/70ZR17M/C(58W)

後輪：

190/55ZR17M/C(75W)

指定タイヤ：

前輪：

BRIDGESTONE/BATTLAX
HYPERSPORT S20F

後輪：

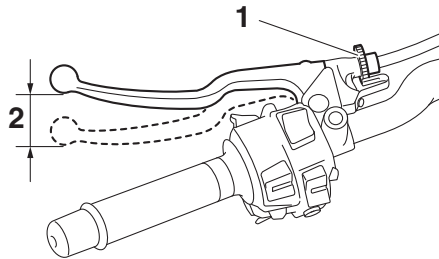
BRIDGESTONE/BATTLAX
HYPERSPORT S20R

JAU48222

クラッチ クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

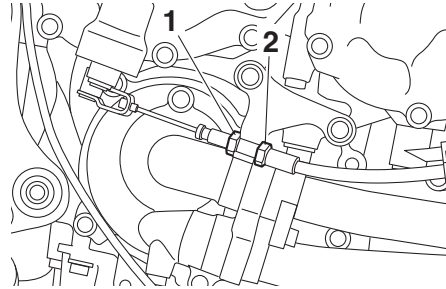
クラッチレバーの遊び
5.0-10.0 mm



1. アジャスター
2. 遊び

点検の結果、調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

レバー側のアジャスターでクラッチレバーの遊びを規定値内に調整できない場合は、クランクケース右側にあるロックナットをゆるめて、アジャスターで調整します。



1. ロックナット
2. アジャスター

JWA11841

警告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

注意

- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。

JAU31122

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検 ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

警告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36505

ブレーキランプスイッチの点検

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプはABSの構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

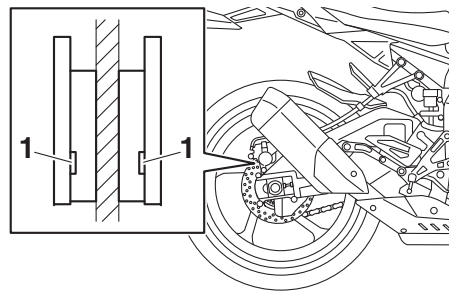
JAU49291

ブレーキパッドの点検

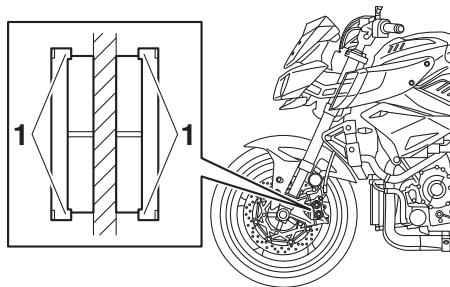
ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

<フロントブレーキ>

ブレーキパッドのインジケータとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケータ溝



1. インジケータ

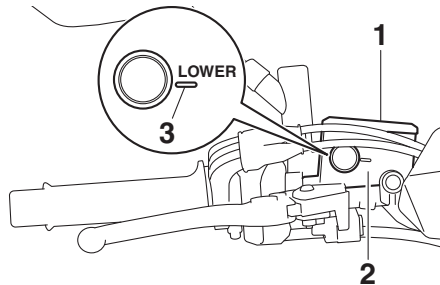
<リアブレーキ>

ブレーキパッドのインジケータ溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

ブレーキ液量の点検

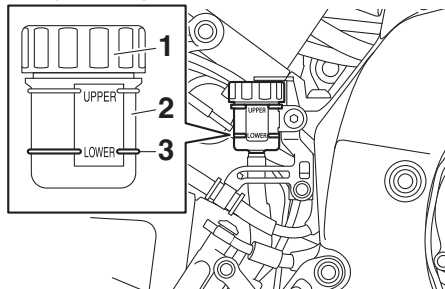
<フロントブレーキ>

JAU44233



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

<リアブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

警告

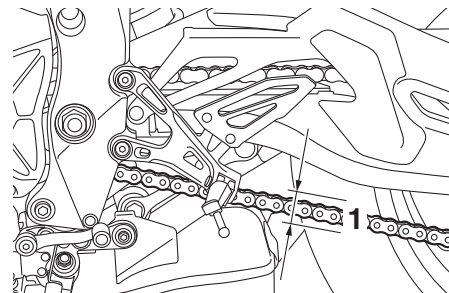
- ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

ドライブチェーン

JAU22762

ドライブチェーンの点検

JAU74253



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

ドライブチェーンたわみ量：

20.0-30.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲

点検整備

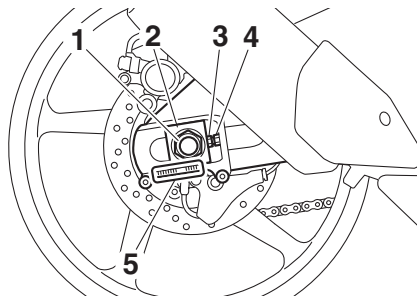
にない場合は、たわみ量を調整します。
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU74260

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロックングナットをゆるめます。



1. セルフロックングナット
2. チェーンブラー
3. アジャスター
4. ロックナット
5. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロックングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

セルフロックングナット：
190 N・m (19 kgf・m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

ロックナット：
16 N・m (1.6 kgf・m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23026

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

- スチーム洗浄はしないでください。
- シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

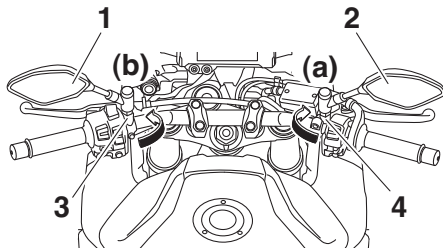
JAU43562

の手順で行います。

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り (a) 方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り (b) 方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



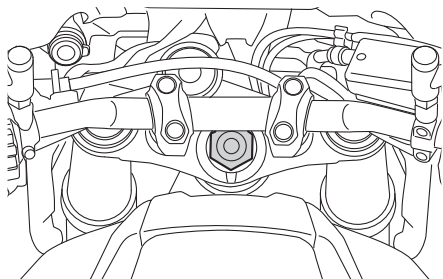
1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検 (ステアリングシステム)

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



7 締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要です。バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣

服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

注意

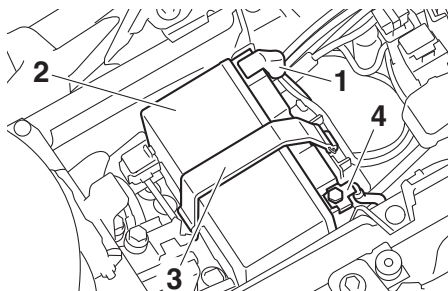
- このバッテリーは密閉式の12Vです。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU28791

バッテリーの取り外し

1. シートを取り外します。(4-18 ページ参照)

2. バッテリーバンドを外します。
3. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. +リード線
2. バッテリー
3. バッテリーバンド
4. -リード線

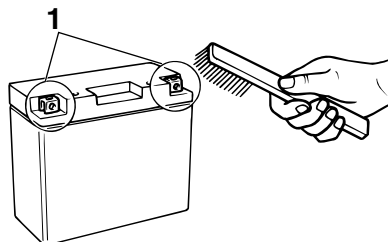
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

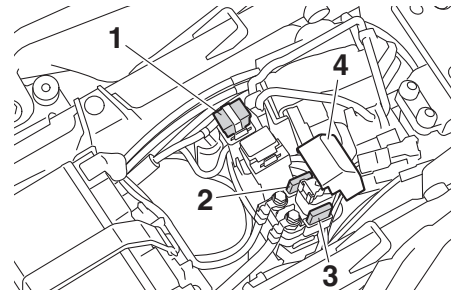
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



1. ターミナル

ヒューズの交換

メインヒューズ、ABS モーターヒューズはシートの下にあります。(4-18 ページ参照)

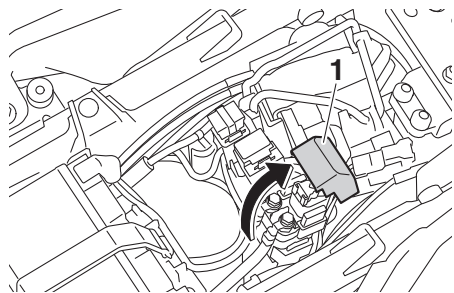


1. メインヒューズ
2. ABS モーターヒューズ
3. スペア ABS モーターヒューズ
4. スターターリレーカバー

要 点

スターターリレーカバーを上側に持ち上げて取り外します。

点検整備

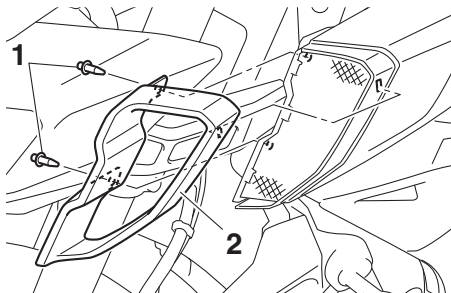


1. スターターリレーカバー

ヒューズボックスは左サイドカバー A と B を外したところにあります。

ヒューズボックスのヒューズ交換は以下のように行います。

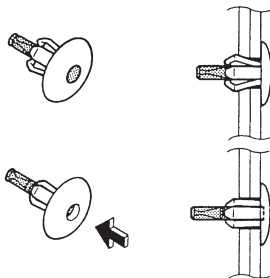
1. クイックファスナーを取り外し、左サイドカバー A を取り外します。



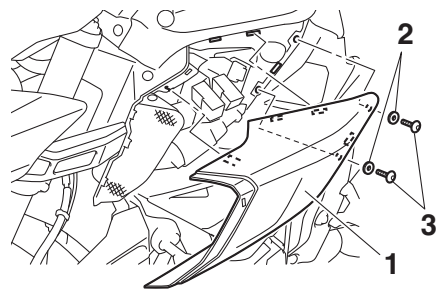
1. クイックファスナー
2. 左サイドカバー A

要 点

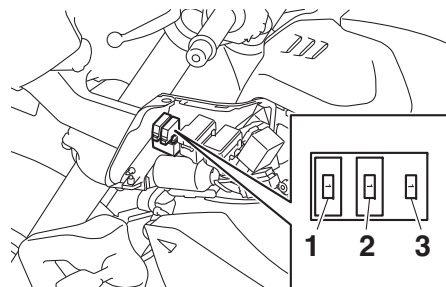
クイックファスナーはセンターピンを押し込んで取り外します。



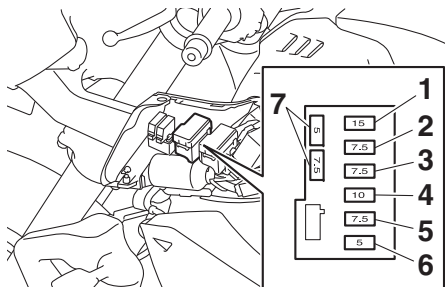
2. ボルトとワッシャーを取り外し、左サイドカバー B を取り外します。



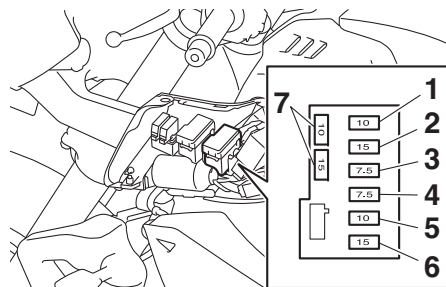
1. 左サイドカバー B
2. ワッシャー
3. ボルト



1. ブレーキランプヒューズ
2. クルーズコントロールヒューズ
3. スペアヒューズ



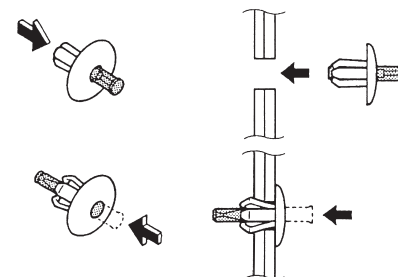
1. イグニッションヒューズ
2. シグナルヒューズ
3. ABS ECU ヒューズ
4. ヘッドライトヒューズ
5. ハザードヒューズ
6. DC ターミナルヒューズ 1 (DC ジャック)
7. スペアヒューズ



1. ABS ソレノイドヒューズ
 2. フューエルインジェクションヒューズ
 3. 電子制御スロットルバルブヒューズ
 4. バックアップヒューズ
 5. サブジェーターファンモーターヒューズ
 6. ラジエーターファンモーターヒューズ
 7. スペアヒューズ
3. カバーを元の位置に戻します。
 4. ワッシャー、ボルトとクイックファスナーを取り付けます。

要 点

クイックファスナーはセンターピンをクイックファスナーの面から押し出した状態で取り付け、その後センターピンをクイックファスナーの面と同じ位置まで押し込みます。



ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ:

メイン:

50.0 A

DC ターミナル 1:

5.0 A

ヘッドライト:

10.0 A

シグナル:

7.5 A

イグニッション:

15.0 A

ラジエーターファンモーター:

15.0 A

サブラジエーターファンモーター:

10.0 A

ABS モーター:

30.0 A

ハザード:

7.5 A

ABS ECU:

7.5 A

ABS ソレノイド:

10.0 A

フューエルインジェクション:

15.0 A

バックアップ:

7.5 A

電子制御スロットルバルブ:

7.5 A

ブレーキランプ:

1.0 A

クルーズコントロール:

1.0 A

3. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

灯火装置および方向指示灯の点検

JAU29445

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-14 ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（9-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所 の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

お車の手入れ

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

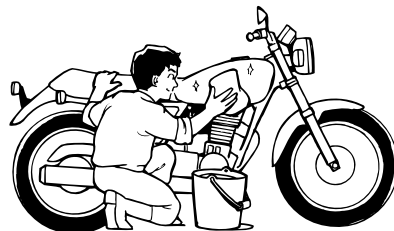
注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守りま

- 中性洗剤を使用して洗車した後、十分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなること

JAU27795

あります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12214

注意

- エアクリナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- ウィンドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い 日常のお手入れ

JAU28001

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしないと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

警告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注意

- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを

走った後は、すぐに水洗いをしてください。

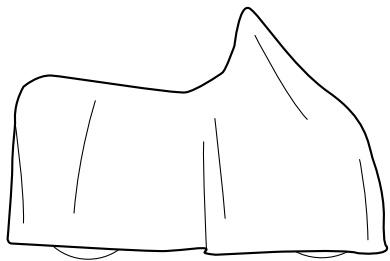
お車の手入れ

JAU35912

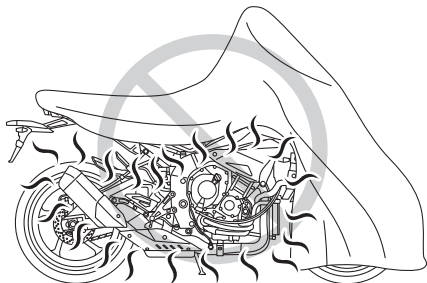
保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



8



JCA13111

注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28086

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU80981

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。

高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。

低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。

大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下のURLを入力してホームページを参照するか、「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<https://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



寸法:	動弁機構:	リヤタイヤ:
全長:	DOHC	種類:
2095 mm	配列:	チューブレス
全幅:	直列	サイズ:
800 mm	気筒数:	190/55ZR17M/C(75W)
全高:	4 気筒	メーカー / 銘柄:
1110 mm	総排気量:	BRIDGESTONE/BATTLAX
シート高:	997 cm ³	HYPERSPORT S20R
825 mm	フロントブレーキ:	動力伝達機構:
軸間距離:	ブレーキ形式:	1 速:
1400 mm	油圧式ダブルディスクブレーキ	2.600 (39/15)
最低地上高:	指定ブレーキフルード:	2 速:
130 mm	BF-4 (DOT-4)	2.176 (37/17)
重量:	リヤブレーキ:	3 速:
車両重量:	ブレーキ形式:	1.842 (35/19)
210 kg	油圧式シングルディスクブレーキ	4 速:
乗車定員:	指定ブレーキフルード:	1.578 (30/19)
2 名	BF-4 (DOT-4)	5 速:
性能:	フロントタイヤ:	1.380 (29/21)
最小回転半径:	種類:	6 速:
3.3 m	チューブレス	1.250 (30/24)
エンジン:	サイズ:	エレクトリカル:
行程:	120/70ZR17M/C(58W)	電圧:
4 ストローク	メーカー / 銘柄:	12V
冷却方式:	BRIDGESTONE/BATTLAX	バルブワット数:
水冷	HYPERSPORT S20F	ヘッドライト:
		LED

製品仕様

ブレーキ/テールランプ:

LED

方向指示灯（前）:

LED

方向指示灯（後）:

LED

番号灯:

LED

マーカーランプ:

LED

エンジンオイル:

推奨オイル:

ヤマレーブ RS4GP、プレミアムシンセティック

エンジンオイル量:

オイル交換時:

3.90 L

オイルフィルター取り外し時:

4.10 L

冷却水容量:

リザーブタンク（FULL レベルまで）:

0.25 L

ラジエターと全ての経路:

2.25 L

バッテリー:

バッテリー型式:

YTZ10S

バッテリー容量:

12 V, 8.6 Ah (10 HR)

スパークプラグ:

メーカー/型式:

NGK/LMAR9E-J

プラグギャップ:

0.6-0.7 mm

二輪車を廃棄する場合は？ 廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

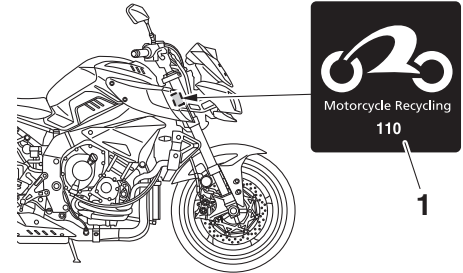
廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用を

JAU36644

メーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>
公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ

<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

ユーザー情報

サービスマニュアル(別売)の紹介

JAU28393

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-000-BW8

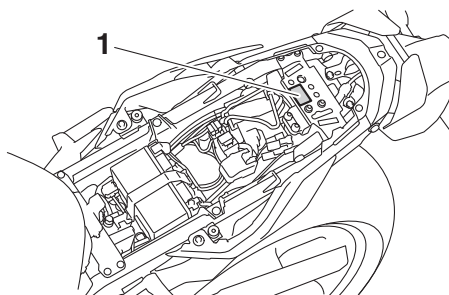
車両情報 モデルラベル

JAU28457

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えてください。

車名は

MT-10

モデルラベル

製品仕様を示しています。

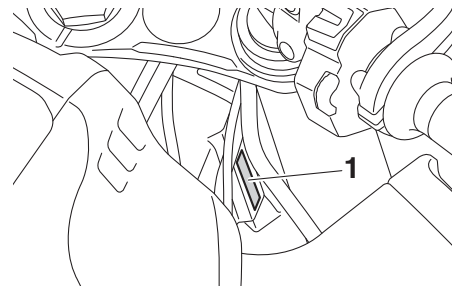


カラーリングを示しています。



JAU50501

車台番号



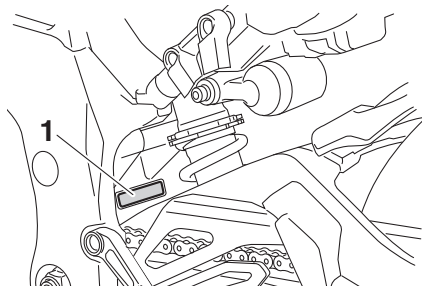
1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

原動機番号

JAU50511



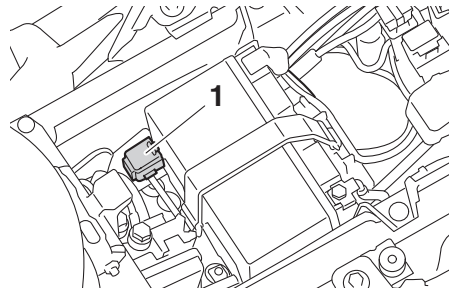
1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

故障診断コネクタ

JAU73861



1. 故障診断コネクタ

この車には故障診断コネクタが搭載されています。

JAU74841

車両情報の記録に関して

この車両に搭載されているコンピューターは、故障診断や調査、開発を目的として、車両情報を記録しています。

記録された情報は、車両の点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、ヤマハに送信されます。

モデルによって異なりますが、記録される主な情報は次のとおりになります。

- 車両の状態やエンジンの使用状況
- 排気ガスに関する情報

記録された情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。

- お客様の同意をいただいた場合
- 法的に求められた場合
- ヤマハが裁判で使用する場合
- 車両や個人を特定することなく、ヤマハが統計調査などに使用する場合

あ	あなた自身と同乗者のために 1-1	クルーズコントロール表示灯 4-6	て	DC ジャック 4-24
	アフターケア用品について 8-3	け	低速、加速の状態の点検 7-4	D-mode (ドライブモード) 3-3
	アルミフレーム、 キャストホイールの取り扱い 8-2	警告灯と表示灯 4-5	点検整備の実施 7-1	
	アンダーブラケットの 取り付け状態の点検 (ステアリングシステム) 7-13	原動機番号 10-3		
い		こ	と	灯火装置および方向指示灯の 点検 7-17
	イグニッションサーキット カットオフシステム 4-25	故障診断コネクタ 10-3	盗難警報器 (別売アクセサリ) 4-15	ドライブチェーン 7-10
	イモビライザーシステム 4-2	さ	ドライブチェーンの給油 7-11	トラクションコントロール システム 3-4
う		サービスツール 7-2	トラクションコントロール システム表示灯 4-7	
	運行において異常が認められた 箇所の点検 7-18	サービスマニュアル (別売) の 紹介 10-2		
え		サイドスタンド 4-25	な	ならし運転 6-3
	ABS 4-16	し		
	エアクリナーエレメントの交換 7-6	シート 4-18	に	荷掛けフック 4-24
	エンジンオイル 7-2	シフトタイミング インジケータランプ 4-7	日常点検箇所 / 点検内容 5-1	日常点検の実施 5-1
	エンジン始動 6-1	シフトペダル 4-15	二輪車を廃棄する場合は? 10-1	
	エンジンのかかり具合、 異音の点検 7-4	車体各部の給油脂状態の点検 7-12		
か		車台番号 10-2	ね	燃料 4-18
	環境・住民の方との調和のために 1-6	車両情報 10-2		
き		車両情報の記録に関して 10-3	は	ハザードスイッチ 4-5
	キーの取り扱い 4-1	車両の特徴 3-1	バックミラー 7-12	バッテリー 7-13
	ギヤチェンジのしかた 6-2	書類入れ 4-19	ハンドルスイッチ 4-3	
く		す	ひ	ヒューズの交換 7-14
	クイックシフトシステム 3-6	スターター / エンジンストップスイッチ 4-4		
	クラッチ 7-8	ステアリングダンパー警告灯 4-7		
	クルーズコントロールシステム 3-1	せ		
	クルーズコントロールスイッチ 4-5	洗車 8-1		
		た		
		タイヤ 7-6		
		ち		
		駐車 6-4		

ふ

- フューエルタンクキャップ 4-17
- ブレーキ 6-3
- ブレーキ液量の点検 7-10
- ブレーキパッドの点検 7-9
- ブレーキランプスイッチの点検 7-9
- ブレーキレバーの遊び /
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検 7-8
- ブレーキレバーの握り調整 4-24
- フロントフォークの調整 4-19

へ

- ヘッドライト上下切り替え /
パッシングライトスイッチ 4-4
- ヘルメットホルダー 4-19

ほ

- ホーンスイッチ 4-4
- 方向指示器スイッチ 4-4
- 保管のしかた 8-3
- 歩行者と他の車のために 1-5

ま

- マルチファンクションメーター 4-8

め

- メインスイッチ 4-2

も

- モデルラベル 10-2

り

- リヤクッションの調整 4-21

れ

- 冷却水 7-5

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-100-BFT